

第2回健康ちば地域・職域連携推進協議会 委員からの意見（書面）

No.		意見	県回答
1	素案	協会けんぽ千葉支部として次期データヘルス計画において、メタボリックシンドローム対策と喫煙対策の実施について検討中。今回示された健康ちば21（第3次）（案）の施策の方向性（4つの柱）とも合致するものであり、特定健診・特定保健指導の効果的实施や健康な職場づくり宣言事業所の拡大も併せて、将来を見据えた千葉県民の健康づくりと医療費の適正化に向けて、千葉県全体で取り組む必要があると思料する。	御意見を踏まえて、健康ちば21（第3次）（案）の策定を進めていく。
2	概要	概要の(1)社会とのつながり・こころの健康の維持及び向上欄の主な取組欄。 主な取組欄に3点記載されているが、4点目「治療と仕事の両立支援に係る取組の連携」を3点目「職域におけるメンタルヘルス対策の推進」の下に追加して欲しい。	国の健康日本21（第三次）において「社会とのつながり・こころの健康の維持及び向上」の考え方は、人々の健康はその人を取り巻く社会環境の影響を受けるため、就労や通いの場のような居場所づくりといった環境整備を推進することで、人々の精神的・身体的健康に良い影響を与えるというものである。 この考えに基づき、主な取組として地域のつながりを強化する団体の取組支援等を記載している。 県では「治療と仕事の両立支援に係る取組の連携」について、罹患後の治療と仕事の両立という意味で計画を策定しており、「生活習慣病（NCDs）の発症予防と重症化予防」の取組として内容を記載し、県が策定している他の計画との整合性を図っている。
3	素案 P47 ～ 49	説明および図表は第2期計画で、市町村格差では男性は「D」評価としたものですが、説明では評価について触れていないので誤解はないと思う。しかし、第3期計画では「上位4分の1の市町村を下位4分の1の市町村の平均値と比較します。」の説明を追加しておいた方がいいように思う。3頁7行目～11行目までに記載してありダブることになるが、解説が必要だと思うため検討いただきたい。	P47～49には健康ちば21（第2次）最終評価の内容を記載しており、素案P3内に記載している評価方法は、健康ちば21（第3次）の内容となる。わかりやすい表記とするため、P47に「<健康ちば21（第2次）最終評価から抜粋>」と表題をつけた文章に修正する。
4	指標	目標値で増加傾向、望まない受動喫煙の社会の実現、減少傾向へ、増加を抑制等が使われているが、数値目標を入れることが望ましいと思う。現状値から〇%増、減でもよいと思うため検討いただきたい。	国の健康日本21（第3次）にあわせて指標設定を行っているため、具体的数値目標がない指標が存在する。今回の健康ちば21（第3次）では、委員からの御意見を踏まえて、県民や自治体等にわかりやすく評価方法を記載した。
5	指標	指標中の現状値は平成27年の県民・健康栄養調査の値となっているが、令和4年に調査されたと思う。新しい値での評価に変更する可能性はあるか確認したい。	県民健康・栄養調査は、直近で令和4年に実施している。現在結果集計中のため、計画には平成27年の調査結果を反映している。
6	素案	具体的施策・取組の方向性に、骨粗鬆症予防を盛り込むことは無理があるか。高齢者の低栄養予防に包括されているとの判断で良いのか。	骨粗鬆症予防については、素案P55 ア 個人の生活習慣の改善と生活機能の維持向上（イ）身体活動・運動と、素案P100 エ ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり（イ）高齢者の2か所に、県が実施する具体的施策と取組の方向性として記載している。
7	素案 P3	具体的数値目標がない指標について、増加、増加傾向、減少、減少傾向といった用語の使い分けに意味があるのであれば、改善率±5%とした閾値の設定もそれに応じてより妥当に設定が出来るかもしれないと感じる。	目標値を「増加」「減少」に統一して、一律に改善率を用いた評価方法を採用することとする。

※素案や概要の細かい文字等の修正についてご意見いただいたものについては、素案内で修正をしております。